

<農業生産法人、集落営農組織の育成に取り組む事例>

○集落ぐるみの農業生産活動の強化を目指し法人化

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	滋賀県甲賀市 三大寺			
協定面積 30.7ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稻、小麦、大豆			
交付金額 370 万円	個人配分			0 %
	共同取組活動 (100%)	集落の活動に対する経費	3	%
		省力化農機具・付属装置の購入	50	%
		獣害防止対策用施設代、維持管理・保守委託	6	%
		水路の清掃、道路の補修、共同活動、交流事業	25	%
		獣害防止対策用施設の資材	5	%
協定参加者	農業者 55 人、生産組織 1、農業生産法人 2、非農業者 85			開始：平成 17 年度

2. 取組に至る経緯

三大寺集落では、昭和 52 年から 58 年にかけてほ場整備が実施されたが、小さな区画が多いため作業効率も悪く、集落の高齢化や後継者不足から畦畔の草刈り等も負担となってきたことから、生産組合を通じて、集落ぐるみで農業生産活動を行ってきた。

しかし、条件の良いところであっても耕作放棄地が現れ始めたことから、集落全体に「耕作放棄農地をなくし、農地を守る。」といった意識が芽生え、後継者の問題とも相まって、平成 17 年度から中山間地域等直接支払制度に取り組むこととなった。

集落ぐるみでの農業生産活動のさらなる強化を目指し、平成 18 年には、特定農業団体を設立し、法人化に向けての研修会等を進め、24 年、農事組合法人「いいみちふアーム」の設立に至った。

3. 取組の内容

三大寺集落では、集落の事業には集落全員が協力して取り組んで来た慣行があり、協定には農業者だけでなく非農業者も参加して、日常の水路の管理、草刈りに加え、一斉草刈りや水路の補修、農道の修理を実施するなど一体となって取り組んでいる。

第 2 期対策では、主に共同利用機械の購入を行い、第 3 期対策では、農道や水路の維持管理、農村環境美化に加え、収穫祭やため池での池さらい、魚つかみなど住民との交流対策にも取り組んでいる。



【いいみち米の作付け】



【収穫祭での農作業体験】

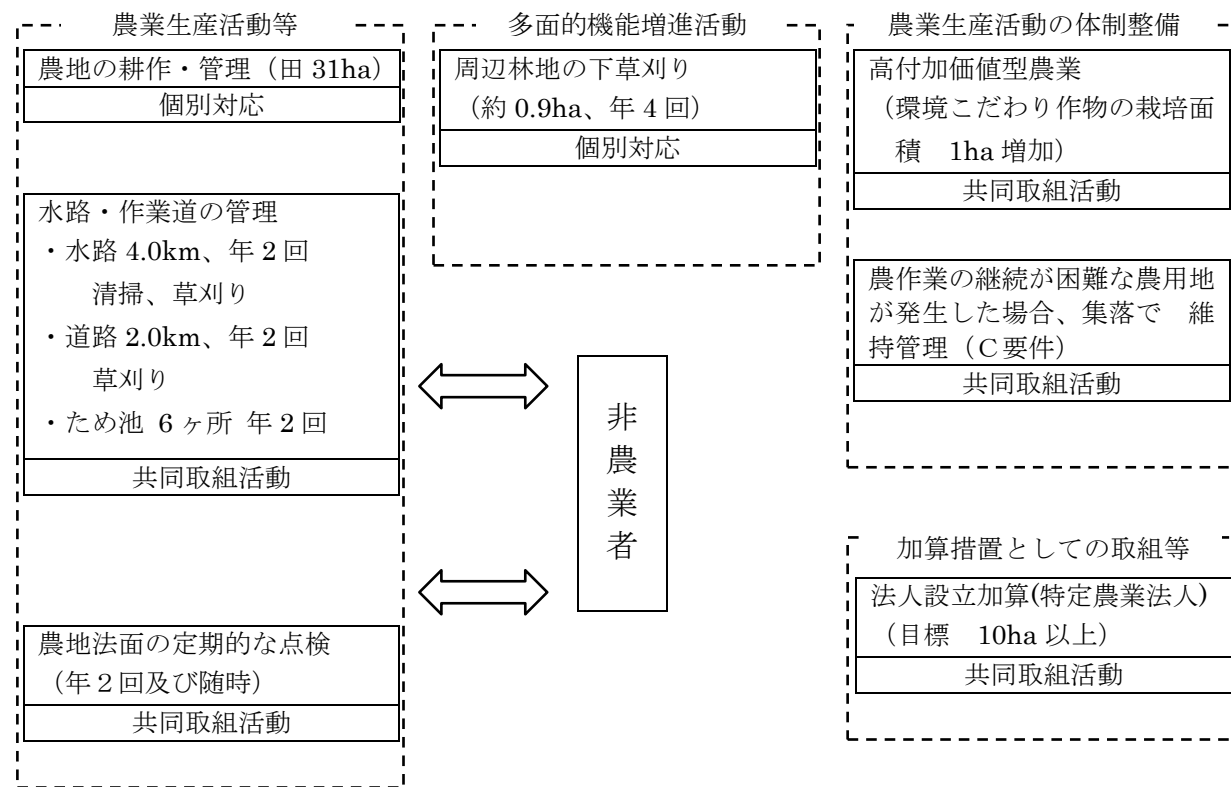
【集落の将来像】

- 農事組合法人「いいみちふアーム」を中心とした集落ぐるみの農業生産活動
- 住民間交流の活性化による集落意識の向上
- 水稻を中心に野菜等の栽培に着手し、6次産業化を目指す



【将来像を実現するための活動目標】

- 環境こだわり作物の栽培面積の増加



4. 今後の課題等

水稻中心の作物であることから、より収益性の高い農業に取り組んでいく必要があるが、野菜は、費用がかかるため利益率も低く、また、集落には兼業農家が多いことから、平日も作業できる人が少ないこともあって、今後とも水稻が中心となる。

米の質が良いことから、「いいみち米」ブランドで、米の地産地消や直接販売を行いたい、乾燥調製設備を持ち合わせていないため、量的に限界がある。

今は環境整備の時期と考え、若い人も取り組みやすい環境づくりを目指している。

【第 2 期対策の主な成果】

- 獣害用防止ネットの設置
- 大豆用コンバイン、ラジコン動力噴霧機、自走式傾斜草刈機等の共同活動・体制整備に係る機械購入